

京都教区

「新型コロナウイルス感染症に関するアンケート」

調査結果報告書

調査概要

アンケートの目的

- ①各組・寺院の状況を把握する。
- ②各組・寺院で講じられている工夫に関する情報共有を図る。
- ③各寺院・組・教区の諸活動に資していく。

期間

2020年7月22日（水）依頼～9月10日（木）締切

対象

京都教区内全29組組長（寺院毎に提出いただいた組あり）
アンケート提出総数90

このアンケートは、新型コロナウイルス感染症による様々な影響や対応・対策についての情報共有を図ることを目的として、教区会参事会・教区門徒会常任委員会合同懇談会において設問内容等の確認を行い調査を実施したものです。各設問に対して自由な回答を求める形式の調査としたため、数値的な統計ではなく、様々な影響や対応・対策等を共有する内容としてとりまとめています。

1. 総括 「新型コロナウイルス感染症に関するアンケート」から見えてくること

新型コロナウイルス感染症影響下において、いかなる対応・工夫のもとに仏事を厳修しているかに焦点を当て、そこから見えてくることを設問毎に簡潔にまとめてみた。

設問1 「寺院・組の状況について」から見えてくること

- ①ほぼ全ての寺院で必要最低限度の感染症対策（マスク・消毒液・三密の回避）がなされた上で法要等が厳修されている。
- ②新型コロナウイルス感染者が増え続ける中、感染しない・させない工夫と同時に、偏見や差別による犠牲者を出さないよう、仏法を通して語っていく必要がある。
- ③不安が拭いきれない中で、対策を講じながらも仏事がつとまることの意味を今一度確かめ合うことが大切である。

設問2 「新型コロナウイルス感染症影響下での工夫・事例」から見えてくること

- ①小規模単位でつとめられる仏事の利点（施主家族とゆっくり対話できる）を逆に大切なご縁とする姿勢が注目される。
- ②つながりを保ち、丁寧な付き合いをしていく工夫として、文書伝道に関する取り組み（寺報作成・法話プリント配布・手紙等）に力を注ぐ傾向にある。
- ③文書伝道等の地道な取り組みが、新型コロナウイルス感染症影響下において小規模でも「お参りしたい」という気持ちを保ち続けさせているように思われる。

設問3 「法要厳修等に係る判断方法」から見えてくること

- ①同じ組内であっても地域毎に状況が異なるため、一律に判断（中止・延期・規模決定等）することは難しい状況が伺われる。
- ②小さな単位（総代と寺院運営について、ご家族と法事について等）での深い話し合いを大切にすることの重要性が伺われる。
- ③寺院運営（法要中止・規模縮小）について、住職一人ではなく組内寺院や総代等と相談した上で判断した場合、相談相手からの声掛けが期待でき、再開に向けた後押しにつながっているように思われる。

2. 設問毎の回答報告・事例紹介

設問1 新型コロナウイルス感染症の影響に伴う寺院及び組の状況について

(1) ご門徒が寺院に集まる仏事

◆主な現状

- ①2020年3～6月は、新型コロナウイルスについての情報が少なく、緊急事態宣言の影響もあり、中止や延期としたところが多く見られる。
- ②法要に関してはマスクや消毒液が流通し始める頃より寺院における感染症対策を講じつつ、内勤め等、規模を縮小して実施するところが大半となっている。
- ③多人数での法事や行事等は延期や、中には中止というところもある。

◇仏事毎の現状

①宗祖御遠忌について

- ・延期したところが多かったが、規模を縮小して実施したところもある。

②報恩講、彼岸会、盂蘭盆会の現状（実施した際の主な工夫）

- ・参拝者を限定する（役員のみ、地区別参拝、二部制等）。
- ・組内参勤法中の人数を限定、もしくはご遠慮いただく。
- ・本堂を開放し、適宜参拝、焼香できるように案内する。
- ・おつとめの内容を変更した。マスク着用でおつとめする。
- ・法話の時間を短縮し、マスク着用やアクリル板を設置して実施する。
- ・お齋を弁当とし、お持ち帰りいただく。

③法事・その他行事の現状（実施した際の主な工夫）

- ・小規模単位で実施する。
- ・もち方について丁寧に施主と相談する。

(2) 僧侶が出向く仏事

◆主な現状

- ①緊急事態宣言発令中は影響を受けたが、その後は感染対策（マスクの着用や消毒液を持参する等）を講じた上で再開しているところが多い。
- ②全般的に規模の縮小・簡略化（家族のみ）が多くみられる。
- ③家庭でなくお寺を会場にする機会が増えている。

◇仏事毎の現状

①葬儀・通夜の現状

- ・ほとんどが家族葬になっている。
- ・他府県、遠方の方は呼ばないようになっている。
- ・少人数をお願いしている。
- ・法話を短縮している。
- ・お斎の場がなくなっている。
- ・ホールで実施の場合はその指示に従っている。

②法事の現状

- ・寺院毎に差がある。
- ・中陰を含め、家族のみがほとんどとなっている。
- ・会場をお寺に変えることが増えている。
- ・高齢者の出席が減少している。
- ・お斎の場がなくなっている。
- ・リモート法要を行っているところもある(1件)。

③月参り、盆参り、門徒報恩講の現状

- ・高齢者宅へのお参りを休止している寺院もある。
- ・滞在時間を短くしている。
- ・不安のためお断りの連絡がある。
- ・家族だけのおつとめが多い。
- ・お盆参りを本堂で実施した寺院もある。

④墓参り、地藏盆

- ・墓参りはほぼ通常通りとなっている。
- ・地藏盆は中止のところが多くなっている。

(3) 組の事業

◆主な現状

- ①組会以外は中止や延期の判断や、実際に集まることを回避しているところが多くみられる。
- ②感染者が増加傾向にある地区では書面会議を実施している。
- ③参加者の健康、安心安全を十分に考慮した上で開催方法を判断している。

◇会毎の現状

①組会

- ・工夫（三密の回避、時間短縮等）して実施しているところが多くみられる。
- ・委任状をとり、人数を減らす工夫をしているところもある。
- ・書面会議も採用されている。
- ・飲食禁止とし、弁当は持ち帰るようにしている。

②組門徒会

- ・書面会議を採用したところが多くみられる。
- ・実施に際して工夫（三密の回避、時間短縮等）している。

③教化委員会

- ・実施に際して工夫（三密の回避、時間短縮等）している。
- ・LINE（スマホ、パソコン）で実施したところもある。

④同朋大会

- ・概ね中止や延期としている。コロナの状況を見て判断する。

⑤坊守会・推協

- ・研修会は少人数実施もしくは中止が多くみられる。
- ・総会は主に書面会議を採用している。

⑥同朋の会、研修会、学習会

- ・2020年3～6月は、緊急事態宣言の影響もあり、中止や延期としたところが多く見られる。
- ・遠方やコロナウイルス感染拡大地域からの講師出講は控える傾向にある。
- ・全ての事業で参加者がきわめて少なくなっている。役員は大変苦勞している。

⑦組内法要等

- ・概ね中止もしくは延期としている。

設問2 新型コロナウイルス感染症の影響下における工夫・事例

(1) ご門徒が寺院に集まる仏事

◆主な工夫

- ①寺院に新型コロナウイルス感染症防止に必要な物品を備えている（購入工夫）。
- ②三密の回避や時間短縮等、会場設営や勤め方を変更している（やり方工夫）。
- ③インターネット配信等、新たな取り組みを導入している（新規工夫）。

◇様々な工夫

①購入工夫

- ・マスク、フェイスシールド、マウスカバー
※フェイスシールドは目からの飛沫感染を防ぐものであり、マスクとの併用が求められる。マウスカバーは医学的見地から飛沫防止が不十分であるのでマスクが勧められている。
- ・消毒液、ウェットティッシュ、オゾン発生器、電解水
- ・非接触温度計（検温器）
- ・パーティション（法話用）、遮蔽幕（受付等）
- ・湯飲みからペットボトル、紙コップに変更
- ・下足棚を設置し番号札交付（下足袋の廃止）

②やり方工夫

- ・席の間隔を開ける。
- ・換気をこころがける。
- ・人数制限をする（内勤め、県外者の見合わせ、数日に分ける）。
- ・日程を短縮する（焼香のみの参詣、換気できない夜は控える、読経、法話等）。
- ・法要時期を変更する（換気しやすい暖かい時期）。
- ・声を張り上げないようなおつとめにする。
- ・中止を選択する（茶話会、お斎、法中の参り合い、おみがき、法話）。
- ・世話方、責役、総代等と相談し不安を減らす対策を共に考える。
- ・必ず注意を促す（私語を控える、体調不良の方にご遠慮いただく、マスクの着用）。
- ・紙面による教化教材を提供する（小冊子、パンフレット、住職作成文書）。

③新規工夫

- ・リモート、書面、WEB会議を導入する。
- ・法話をインターネットで配信する。
- ・法話DVDを作成し回覧する。

(2) 僧侶が出向く仏事

◆主な工夫

- ①勤行時マスク着用、消毒液の持参等、感染予防対策をしている。
- ②人数を制限してもらった上で、長居をしない。
- ③各家庭の要望に対応する。

◇出向前から出向後にかけての工夫

①出向前の準備

- ・手洗い、消毒の徹底。
- ・車で移動する。
- ・各家庭の要望に対応する。
- ・参列者を制限してもらうよう伝える。
- ・お斎はいただかない旨を伝える。
- ・お茶を持参する（出先でいただかない）。

②出向先での対応

- ・マスクを着用しておつとめする。
- ・法話の補足としてプリントを配布する。
- ・法事を本堂で勤めることも薦める。
- ・通夜は回り焼香にしてもらう（会館で行う場合）。
- ・大きな声を張り上げておつとめしない。
- ・長居をしない。

③出向後、その他

- ・教化に関するプリントを配布している。
- ・会ってゆっくり伝えられないことを手紙で配信し心を繋いでいる。
- ・LINE のビデオ通話を利用して、本堂で中陰法要を執り行った（1件）。
- ・仏事の小規模化がかえって深い会話の機会を増やしている。

(3) 組の事業

◆主な工夫

- ①コロナウイルス感染症防止に必要な物品を備えている。
- ②三密の回避に努めている。
- ③書面や WEB 会議を採用している。

◇その他工夫

- ・研修会はコロナの拡大にかかわらず、広い会場で行うことを考えている。
- ・会場寺院では、密を避けるため人数制限を設け、各寺院への募集は、申込の先着順で定員になり次第締め切る方法を採用している。
- ・コロナ感染の収束の見通しが立たないので、可能な限り各種の会議や研修会、大会等先延ばしし、年度後半に実施を計画している。
- ・できる限り人と人との接触機会を減少させるために、本来ならば諸会議・研修会等において配布する資料等を組長と副組長が各寺院を訪問・配布している。
- ・インターネット配信とDVDを製作し回覧している。

設問3・4

新型コロナウイルス感染症の影響下における 法要厳修に係る判断方法・その他について

組	設問3 法要の厳修に係る判断方法について 設問4 その他
	①各寺院の判断に任せる ②組として判断する ③参り合いをしている寺院ごとで協議し判断する ④未定 ⑤その他
山1	①各寺院の判断に任せる。
山2	① 各寺院の判断に任せる。 ・法話の動画配信についてライブ配信よりも録画配信の方が良いと考えているが、大谷祖廟で開催された暁天講座は録画配信でした。その際にガイドラインや配慮すべきこと、また編集は職員の方々なのか外注なのか等、動画配信についてお聞きしたいと考えております。
山3	
山4	①各寺院の判断に任せる。 ・報恩講の参勤法中はどうするか？自粛を考えている。
山5	①各寺院の判断に任せる。 ・何が起こるか分からないと思って行動するように気をつけたい。マスコミのニュースなどは、疑問に思う場合もあるので、気をつけて判断したい。
近1	①各寺院の判断に任せる。 ③参り合いをしている寺院毎で協議し判断する。 ・お参り合いは中止し、その後の判断は各寺院に任せる。
近2	①各寺院の判断に任せる。 ③参り合いをしている寺院毎で協議し判断する。 ・密を避けるということで研修会などの会場寺院は例年通りの参加希望者を受け入れることができなくなっている。その対策として、市民センター、公民館、別院などを借りなければならず、会場使用料が高く、負担になるので、教務所からの助成をお願いしたい。
近3	①各寺院の判断に任せる。 ・家族だけの年忌報恩講の法話は今までと違い、それなりにいいものである。蓮如上人「一宗の繁昌と申すは、人の多くあつまり、威の大なる事にてはなく候。一人なりとも、人の、信を取るが、一宗の繁昌に候う」。これのみである。
近4	①各寺の判断に任せる。 門徒役員と協議の上で決める。 他寺の状況を見る。 ③参り合いをしている寺院毎で協議し判断する。 報恩講は組内で相談する。 ・目線が高いので、目線を意識される以上に下げて行ってほしい。 例) 門徒対象の研修会で、仏教のそもそもから理解できていないのに、浄土真宗のことは理解できないという声が多い。 ・各行事、法事など、一旦中止してしまうと、再開することは大変困難になると思われるので、規模を縮小したとしても執行すべきだと考える。

近5

- ・地域の他寺院との密な連携が必要であると感じている。
- ・時短・お斎の中止等、従来の報恩講が執行できない状況への不安が大きい。
- ・報恩講が冬期開催であるため、インフルエンザ等、他の感染症蔓延の可能性も否めず、門徒役員との慎重な協議判断を求められると考えている。
- ・門徒から「中止・縮小」等の要望が出されるのを機に、住職と門徒が話し合う良いご縁となっている。また、普段から仏縁の薄い人たちと法事や葬儀について語るようにするなど、このコロナによっていろいろな問題提起をいただいていると捉えている。
- ・お寺、組、教区、宗門にと関わる私たちは、このコロナを通しての日常から問われる生活を今一度再確認する大事な期間である。だれもが後生の一大事をこころにかけ、念仏申すことの中に深く問いかけてくる真宗門徒としての自覚と実践が、これからの歩みとなると思う。

-
- 近6 ①各寺の判断に任せる 4カ寺
③参り合いをしている寺院ごとで協議し判断する 4カ寺
④未定 2カ寺

- ・この度のコロナによる、人々のいのちに対する考えや、囑託殺人、人種差別等、今私達に問われている問題は、まさに真宗が問い続けてきた問題だと思うので、自宅生活の時間が増えている今こそ、社会に対して、宗門が念仏の教えをネットなどで発信すべきだと思います。

-
- 近7 ①各寺院の判断に任せる 10
③参り合いしている寺院ごとで協議し判断する 9
④未定 1

- ⑤2寺院の役員等で協議、本山、教区、または組などで大まかな判断基準のようなものを設けてほしい。
- ・組において法事についての実施基準などを決定してほしい。・地域格差がある以上、各寺院の判断しかない。・コロナ禍に偏見、差別意識がないよう正しく向き合って「諸法無我」の教えを篤実に頂くべきではないか。・コロナ禍を口実に簡素につながらないよう、法事、法要は不要不急ではない確認が必要。・寺離れ、後継者が都会に出て帰ってこられず、高齢者が亡くなれば、空き家になるケースが出て、経常費も払ってもらえない。これからは多くの寺の運営も苦しくなる。・予期しない非常事態宣言に戸惑い不安を抱き、そのことは、三密に配慮するがために今まで大切にしてきたものを見失う事態に及ぶことに。密閉、密集、密接は人と生きるために一番大切にしてきた心を繋ぎ、共に生かされることの喜びと協働の姿勢です。しかし、三密の配慮は解放、分離、拡散、という方向へいくことがコロナ感染対策で命を守る最も重要なことであるとは、寺務の中で困惑をしながらも、門徒さんに説明したり、共に生きることの大切さを伝えたりしているところです。各寺院が、又、坊守として門徒の方々に大切にしていくことの中で、本山の根拠あるガイドライン等示すことによって納得されることが多々あります。各寺院の状況を踏まえることは勿論ですが本山としての一定のコロナ感染対策の中で「寺院の行事等の開催に係るガイドライン」等お示し頂くと大変ありがたいです。※先日、発行して頂きました寺院のための災害対策ハンドブックのように具体的で絵の表示は視覚的に訴えわかりやすく正しい理解ができました（坊守）。

-
- 近8 ①各寺院の判断に任せる。 一日一座のみ。

-
- 近9 ①各寺院の判断に任せる。
なし。

-
- 近10 ③①お参り合いをしている寺院で考えや思いを話し合う場を設けた。それぞれの寺院の考えを聞いた上で最終的には各寺院の判断に任せた。

- ・寺院で行う法要や行事など、中止にしたり省略したりすることは簡単にできるが、次年度以降にうまくつながることが大切。中止したり省略したりすることで、寺離れが進まないようにすることが大切。
-

-
- 近 11 ①各寺院の判断に任せる。
③東部において参り合いはなしと決定
⑤本山からの指針がないので、各寺にて熟慮しながら判断している。できれば、感染防止法要のモデルケースを示して欲しい。報恩講の法中のお参り合いについては、地区で相談し、今年は中止することに決めた。中止は簡単だが、大切な仏事をどうしたらお勤めできるかという事を本山より示してほしい。
⑤「本山や教区で基準を示せ」という意見は間違っていると思う。
-

- ・経常費を2割削減はありがたいが、予算の縮小は今後の運営の縮小をまねくと思う。コロナを理由にするのではなく、仏法興隆や寺院の活性化に必要なことを今考えるべきではないかと思う。
 - ・逮夜や法事の中止により、寺院の運営はますます混迷を極めている、これを機にお寺の運営に必要なことを、各お寺に任せるのではなく、専門家の意見も聞いて、具体的な方法をアドバイスしていく必要があると思う。
 - ・組内の各寺の報恩講を（日程、法話担当僧）一覧表にして、組門徒会員と推進員に配布して、一カ寺一カ寺の報恩講まで共同教化の対象にするのは賛成出来ない。
 - ・合同研修会は組の教化事業として、年に5回も6回も実施するのだから、聞法熱心な人は、それで納得して欲しい。
 - ・報恩講は一カ寺の大事な法要なので、寺檀だけで実施したい。一カ寺の独立性が侵害される。
-

- 近 25 ①今年中止するという寺院もあれば、今年も実施するという寺院もあり。ただ実施する東としても、日程の短縮や参加者の制限等が考えられている。
-

特になし。

- 近 25 ①組内住職の「参り合い」については、同じ組であっても組内が参り合いの組に分かれているため、参り合い寺院の組ごとに判断されることが良いと思う。内陣や僧侶控室においても三密を回避する必要がある、これまでどおりの参り合いは原則不可と考えることが妥当であると思う。
②法要執行の判断の責任所在は、当然、各寺院の住職・責任役員・総代にあるため、一律組長判断というわけにはいかない。最終的には各寺院が責任を負うべき。
③ただし、各寺院においても他の寺院への影響等も考え、最大限の感染防止策を講じて執行すべきだと思う。
④ご門徒の意見を大切に考える
ただし、参り合いの寺院間で情報共有を行う。
⑤拙寺は、御遠忌お待ち受け法要と併せて報恩講を実施するため法話の断りを講師にしなくてはならない関係で、やむをえず。
⑥報恩講が10月に各寺にて勤められます。
6～9月住職が出仕する報恩講は各寺の判断でよいのかと思います。
⑦報恩講は永代経と同じく1日とした。
-

- ・感染症の問題は、従来の仏事に大きな影響を与えると想像される。これまでの風習や伝統が崩れかねないという心配がある。・科学的な対応を行う一方で、あらためて仏法が応えるべきことがあると思う。特に田舎では、感染した時の周りからの偏見や差別を畏れている。事実、感染した方は感染症に苦しむことに加え、心無い噂話による誹謗中傷を受け、偏見などで苦しむという二重苦を負っている。誰もが諸法無我の業縁存在であることを語り、各在所で罹患者が出たとしても偏見や差別による犠牲者をださないようにお寺は仏法を通して語るべきことを門徒に語る必要があるように思う。偏見・差別の犠牲者を出さないことが真宗寺院の役割ではないか考える。・今年度は7月中旬までに御遠忌委員会で方針を決定した。また、組会で組内の寺院に報告しなければならないので、組長にお願いし、組会に上程した。その後、8月9日に門徒に連絡することとしている。・本山（宗門）宗務役員全ての方々に検査を受けてもらいたい。一度でも二度でも検査して常にできる限りの対策をして、ご参拝の皆様を受け入れてほしい。
-

近 26	<p>①10月以降の報恩講について各寺がどうされるか分からない。情報交換の場が必要である。</p> <p>各寺の実践を組でまとめ状況を広報する。</p> <p>※他に③④もあり。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・はっきりとした解決策がない現状、無理に多くの人が集まる機会を作るのはリスクが大きい。 ・文章による伝道、布教の充実。
若 1	<p>①各寺院の判断に任せる。</p> <p>③参り合いをしている寺院ごとで協議し判断する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コロナを口実に諸法要を中止にされているご家庭もあるのでとの意見もあり。
若 2	<p>①できる限り法要法座は勤められるよう工夫を促す。寺を開いていくことが大事。</p> <p>②参考にする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・派手さを増す会館での通夜から葬儀は便利で見栄えがする分、費用もかかります。 ・コロナ禍でこじんまりとする家族葬が増えている昨今ですが、回り焼香のみという通夜の現状、家族と近親者のみで行われる葬儀の現状では故人を偲ぶのに余りにも寂しすぎる気がします。今一度昔に戻るようですが、ご自宅やお寺で行う通夜、葬儀を考えてみる時期にきているのではないのでしょうか。 ・寺院経営や収入減に関する調査、設問がない。かなり深刻なところもあると聞く。 ・法要の開催の判断や法務の簡素化、収入減、各住職はかなり苦しんでいる。
丹 1	<p>③参り合いをしている寺院ごとで協議し判断する。</p>
丹 2	<p>①各寺院の判断に任せる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・web会議の促進を願う（教区の会合）。
丹 3	<p>①各寺院の判断に任せる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・とくにない。
但馬	<p>①各寺院の判断に任せる。</p>
因伯	<p>①各寺院の判断に任せる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・鳥取は陽性者が少ないので（組の機能を失っていることもあるが）各自の状況判断に任せるべきだと思う。逆に、本山から指導があっても、組として強制することはできないと考える。地区についても同じ。
出雲	<p>①各寺院の判断に任せる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・法要の厳修に係る判断方法について、寺院から相談を受けているが、何か参考になるような資料を是非早期に配布をお願いしたい（本山、教務所の見解もそえて欲しい）。
石東	<p>①各寺院の判断に任せる。</p>
石西	<p>④未定</p>

新型コロナウイルス感染症に関するアンケート

組 氏名 _____

1 寺院及び組の状況について

- (1) ご門徒が寺院に集まる仏事 (法要・行事・その他) の状況についてお書きください (中止・延期・内勤め等)。
- (2) 僧侶が出向く仏事 (通夜・葬儀・法事・月参り・その他) の状況についてお書きください (中止・延期等)。
- (3) 組の事業 (組会・組門徒会・教化委員会・各種研修会等) の状況についてお書きください (中止・延期等。※地区の状況もあればお書きください)。

2 新型コロナウイルス感染症の影響下において工夫をしている事例があればお書きください。また、今後想定し得る工夫等があればお書きください。

例：①マスク・消毒液の準備、②三密の回避 (会場の変更、換気に努める、席の間隔や講師と参拝者の間をあける、参加者数を限定する、日程の短縮または延長、お齋の中止等)、③書面会議やWEB会議の導入、④法話のインターネット配信等

- (1) ご門徒が寺院に集まる仏事 (法要・行事・その他) について工夫をしている事例があればお書きください。

※裏面に続く

(2) 僧侶が出向く仏事（通夜・葬儀・法事・月参り・その他）について工夫をしている事例があればお書きください。

(3) 組の事業（組会・組門徒会・教化委員会・各種研修会等）について工夫をしている事例があればお書きください（※地区における工夫もあればお書きください）。

3 法要の厳修に係る判断方法について

寺院の報恩講・永代経等の法要の厳修に係る判断方法について、今後の予定も含めて○をおつけください。

- | | |
|------------------------|-----------|
| ①各寺院の判断に任せる | ②組として判断する |
| ③参り合いをしている寺院ごとで協議し判断する | ④未定 |
| ⑤その他（ | ） |

4 その他、何か所見があればお書きください。

※ご協力ありがとうございました。